

# クロスワードパズル Ver.2

あかやしおの花もほころぶ **A**は **B**る **C**ま **D**っ **E**り

|            |   |            |            |            |   |   |            |
|------------|---|------------|------------|------------|---|---|------------|
| つ          | き | の          | わ          | ●          | じ | ● | す          |
| の          | ● | ご          | ●          | あ          | か | も | ず          |
| ●          | こ | <b>C</b> ま | ど          | り          | ● | も | ●          |
| あ          | い | ●          | ん          | ●          | と | ん | ほ          |
| ま          | ● | ふ          | く          | ろ          | う | ● | し          |
| <b>D</b> っ | ち | く          | <b>E</b> り | ●          | こ | の | <b>A</b> は |
| ●          | た | て          | ●          | っ          | っ | ● | じ          |
| う          | ● | い          | か          | <b>B</b> る | ● | く | ろ          |

今回も楽しんで頂けたでしょうか？  
これで最終回です。  
ありがとう。Byすず



前回掲載したクロスワードパズルの解答です。生き物、特に野鳥に関する内容が多かったので、難しく感じた方が多いかもしれません。実際 Ver.1 よりも、クロスワードを解いてビジターセンターに持ってきてくれる方の数が圧倒的に少なかったです。そんな方も、今この解答を見ながら「なんか聞いたことある！」というものが結構あるのでは？

奥日光はさまざまな植物でフィールドが彩られますが、野鳥や昆虫など、色とりどりの生き物も、あちこちに現れます。遠くを眺めたら木の上に鳥がとまっていたり、目の前をきれいな蝶が横切ったり…街中では見られない生き物も見られるので、ぜひ広い視野で自然観察を楽しんでみてください。

梅雨で外出する気になれない時など、Ver.1（楓通信 No.144）と併せて、再チャレンジしてみてもいいかでしょうか？

## 定期購読のご案内

発行日にご自宅まで本誌をお届けします。

「楓通信」購読料 **1,000 円**

※本誌は無料。送料、手数料として頂きます。

[ No.148～155 ] 3・6・9・12 月発行

[ 申し込み方法 ]

ビジターセンターで申込書にご記入いただくか、下記まで氏名・住所・電話番号をご連絡ください。

✉ yumotovc.guide@bes.or.jp

☎ 0288-62-2461 (FAX: 0288-62-2378)

2022 年 6 月初旬発行 [ 次号 2022 年 9 月初旬発行予定 ]

奥日光の自然情報誌

# 楓通信

2022 年 No.149

6-8 月号



早朝の湯ノ湖

## 今号の特集

見たことあるはず！ 奥日光の蝶

知ってた？ 奥日光のヘンなヤツ？！



「見たことある気がする！」  
という子がいるはず！

# 蝶

## 奥日光の



標高 1000m ～ 2500m まで生息できる、  
冷涼な地を好む蝶。警戒心が強い為  
近づくとすぐに飛んでしまう。名前  
の通り、黄色の帯状の模様がある。



クジャクの羽のような目玉模様があ  
ることから、この名前がついた。北方  
系の蝶のため、本州では主に、標高  
の高い山地に生息する。



幼虫がシモツケ類を食草としている  
ため、ホザキシモツケの多い戦場ヶ  
原、小田代原に数多く生息する。白  
いスジのような模様が特徴。



青緑色に輝く、アゲハチョウの仲間。  
オスは吸水性が強く、水溜まりなど  
で集団で吸水する姿がよく観察され  
る。黒く大きな蝶なのでよく目立つ。



ヒョウモンチョウの仲間、都市から  
山地まで生息。奥日光ではアザミ等  
の蜜を吸っている事が多い。羽の裏側  
が若干緑色を帯びるのが特徴。



低山帯から亜高山帯で多く見られる。  
木道上で、動物の糞や虫の死骸に集  
まり、養分を摂取していることが多い。  
名前の通り、日陰を好む。

## 旅をする蝶



春から初夏にかけて北上し、秋になると世代交代して南  
下することから“旅する蝶”と呼ばれる。  
アサギマダラの翅に日付・場所・名称記号を記入し、別  
の場所で再び捕まえる「マーキング法」という調査が有  
名。飛来状況から、気候や植物など、環境の変化が分析  
できる。調査している方によると、日光から台湾まで移動  
した個体もいるとのこと。その距離なんと 2000km !

## 姿を消した蝶



日本では関東地方から中部地方に分布しており、山地の  
林縁や林間の明るい草原に生息。  
栃木県での生息地は奥日光のみで、戦場ヶ原・小田代原  
周辺に多く確認されていたが、40 年ほど前から数が減り、  
1982 年の目撃を最後に絶滅したとされる蝶。その原因とし  
ては、食草であるクガイソウが、シカの被害によって減  
少したためだと考えられている。

# 戦場ヶ原の通行止めについて

戦場ヶ原のメインルートである自然研究路の一部が、  
5月9日から9月末（予定）まで、歩道の工事のため  
通行止めになっています。この記事を書いている4月時  
点では、下部の地図に記した区間とされています。状  
況により工事区間が変更になる場合もありますので、  
最新情報はビクターセンターのホームページでご確認く  
ださい。

## 赤沼からどこまで入れるのか？

目印がなく分かりにくいので、次の説明を読みなが  
らイメージを膨らませてください。  
赤沼から入り、戦場ヶ原方面へ右折すると、ズミの  
林が始まります。群生するワタスゲを右手に見ながら  
進むと、ホザキシモツケの林に入ります。歩道の両側に  
広範囲にわたりピンク色の花を見ることが出来ます。  
進むにつれ木々が少なくなり、景色がひらけてくると、  
休憩や写真撮影に丁度良い、ベンチのあるデッキがいく  
つか出てきます。この一番最初のデッキの手前で行き  
止まりで、青木橋まで通行止めです。

## 代わりの迂回路はできるのか？

残念ながら、迂回路はありません。上記の道を往

## 代わりのオススメコースは？

赤沼からスタートするなら、低公害バスに乗って千  
手ヶ浜や西ノ湖へ行くのはどうでしょう？去年の楓通信  
の特集（145号）でも触れましたが、戦場ヶ原とは  
異なり、終始森の中を歩くコースです。クリンソウの  
シーズン（5月末～6月）は混雑しますが、修学旅行  
の団体さんがほとんど通らず、奥日光の中でも比較的静  
かなハイキングを楽しむことができます。道も平坦で  
歩きやすく、バスの時間さえ気を付ければ、体力に自  
信のない方でも安心です。

また、戦場ヶ原も一部は通行止めとはいえ、前述し  
たようにズミやワタスゲ、ホザキシモツケの群生地は歩  
くことが出来ます。ガッツリ歩くのは別のコースにする  
として、今回はお花見気分で行くというの  
も良いのではないのでしょうか。



千手の森は土の歩道なので歩きや  
すく、木漏れ日が気持ち良い。ハイ  
キングを楽しみたい方は、西ノ湖入  
口バス停から歩くのがオススメ。

気軽に楽しみたい方は、終点の千  
手ヶ浜で降りて、水辺を散歩したり  
ゆっくり景色を眺めるだけでも◎。  
天気が良ければ男体山も見える。





#### 【粘液】

水滴ではありません！虫をおびき寄せるために自ら分泌したもの。捕えた虫を消化する役割もあります。

#### 【腺毛】

赤い部分のこと。ココから粘液を出し、ネバネバ+腺毛のウネウネで虫を捕えて離さない！

#### 【葉】

緑色の部分。奥日光で見られるものは円形が多いですが、個体によって細長くなったり、実は様々な形があるようです。  
※実物は葉の長さ 5 ～ 10mm

## モウセンゴケ

奥日光では主に、戦場ヶ原と湯ノ湖の湿地帯に生息しています。名前に「コケ」と付いていますが、苔ではなく種子植物。特徴的な形状から何となく予想がつく方がいらっしゃるかもしれませんが、いわゆる「食虫植物」なのです！

円形の緑色の部分が葉で、赤い毛のような部分は腺毛（せんもう）と呼ばれるもの。ここから粘液を出し、これに寄ってきた虫を捕えます。想像するとゾワッとしますが、この粘液がキラキラしているのでかわいらしく見えてきます。お子さんなんかはこういった不思議な生き物が大好きなので、見つけると大喜び！

名前の「モウセン」は、前述した赤い腺毛が、群生したところでは野点の毛氈（もうせん：赤い敷物）に見えることから付いたもの。

この特徴的な形状から、すぐ見つけられそうな気がしてしましますが、奥日光の物は小さい上に湿原のコケに埋もれていることが多いので、普通に歩いていたらまず気が付きません。木道から落ちないように注意しつつ、ギリギリまで近づいて探してみましょう。

### ✓ 観察スポット

#### 戦場ヶ原

泉門池を過ぎてすぐのミズナラ林の途中にある小さな湿原（たくさん花が咲きます）にあります。

#### 湯ノ湖

国道側の歩道にある、湯ノ湖唯一の湿原で見ることができます。レンゲツツジやワタスゲが咲くので、目印にしてください。数は少ないので要チェック！

# 奥日光のヘンなヤツ？！

戦場ヶ原のメインルートが通行止めでガッカリされている方が多いことでしょう。そんな方の為に、他のルートや別のエリアで出会える、一風変わったオモシロ生物をご紹介します！どちらも目立たないので、ご存知ない方が多いのでは？時間を忘れて、夢中で探してしまうこと間違いなし！

## ヒカリゴケ

主に湯ノ湖に生息。他に、湯元～刈込湖間の登山道でも見ることが出来ます。写真の暗さからも分かる通り、岩や木の根の陰を好みます。こちらは名前の通り苔の一種。細胞がレンズ状のため、光の当たり具合によって、反射して発光しているように見えています。名前から勘違いしがちですが、自身は一切発光していません。

道路沿いやコンクリート上などでも見られ、強そうなイメージもある苔ですが、この子は環境の変化に弱く、大気汚染によって簡単に消失してしまいます。つまり、ヒカリゴケが生息できている奥日光は空気がキレイということ！奥日光に来たら、そんな事を思い出しながら、思いっきり深呼吸してみてください。

何度か見つけると、生息していそうな場所が何となく分かってくるはず。

### ✓ 観察スポット

#### 湯ノ湖

山側の一帯に、広く生息しています。木の根の下を注意深く見ながら歩いてみて下さい。

#### 湯元～刈込湖間

湯元から小峠までの間や、小峠の先の階段を上った先の平らな歩道の岩陰に数ヵ所あります。他にもあるかもしれないので、怪しいところは要チェック！

パッと見ないにもないようでも、ライトで照らしたら見つかることも。ぜひ時間をかけてじっくり観察を！

スマホのライトで照らしてみよう！





# ビビターセンターイベント

～湧水シリーズ②～海の目に行く『蓼ノ湖 (たでのうみ)』

7月18日(月・祝)  
9:00-15:00

海なし県の海、気になりませんか？本来冬しか行くことができない蓼ノ湖へ、特別にご案内！まるで日本庭園！雰囲気バツグンの湖畔でゆったりティータイムを楽しみましょう～。  
ただし、急斜面 & 道なき道なので慎重に！

※特別許可を得て実施※

【ルート】湯元→蓼ノ湖→湯元（行きと別ルートで戻ります）

参加費 4,000 円



定員 10 名

対象：現地に集合できる小学5年生以上の方  
集合場所：日光湯元ビビターセンター

## 来たれ昆虫！ライトトラップ

7月30日 & 8月6日  
19:30-20:30

昆虫が苦手でなければ、大人も子供も関係なく楽しめるイベント。大きな幕にライトを当てて虫を集めて観察します！昆虫好きのお兄さんスタッフが一緒に楽しみながら丁寧に説明します。空気があれば、当日の飛び入り参加も可！

【開催場所】光徳園地

参加費 500 円



定員 10 名

対象：現地に集合できる方（年齢制限なし）  
集合場所：光徳無料駐車場

～湧水シリーズ③～おさわ御沢金剛峯と、新ルート金剛湧水

8月26日(金)  
9:30-15:00

大人気、湧水シリーズの第三弾！水辺好きにはたまりません！アップダウンはほとんどありませんが、沢の中をジャブジャブ歩くので、沢靴やスポーツサンダルが必須です！※特別許可を得て実施※

【ルート】光徳無料 P→金剛峯→金剛湧水→裏男体林道→光徳無料 P

参加費 4,000 円



定員 10 名

対象：現地に集合できる小学5年生以上の方  
集合場所：光徳無料駐車場

ゆ せん  
温泉ヶ岳と金精峠～明治の文人が辿った道～

9月9日(金)  
10:30-16:00 (菅沼着)

金精峠から菅沼へ抜けるルートがあるのをご存知ですか？うっそうとしていて個人では行きにくいですが、人が少なく静かで、実は穴場の良い道です。比較的に登山者が少なく景色が良い温泉ヶ岳とセットで満喫！

【ルート】金精山登山口 P→金精峠→温泉ヶ岳→金精峠→菅沼（解散後、集合場所へは路線バスを利用）

参加費 4,000 円

健脚者向

対象：現地に集合できる中学生以上の方  
集合場所：金精山登山口駐車場



定員 10 名

## 探検！世にも不思議なカクレ滝

9月25日(日)  
9:00-15:30

冒険感満載のコースを進んだ先に、青色に輝く神秘的な秘境の滝が！水の中にジャブジャブ入って行かないと滝壺は見えないので、スポーツサンダル必須！その覚悟でお越しください！沢水は冷たいかもしれないけど、楽しいぞ～！※特別許可を得て実施※

【ルート】西ノ湖入口バス停→西ノ湖→カクレ滝（往復）

参加費 4,000 円

対象：現地に集合できる小学5年生以上の方  
集合場所：西ノ湖入口バス停（低公害バス）



定員 10 名

お申込み先（自然公園財団日光支部）

✉ yumotovc.guide@bes.or.jp

☎ 0288-62-2321 (FAX: 0288-62-2378)

お申込みの際、下記をお知らせください。

- ①氏名②令和元年～3年実施イベントの参加有無
- ③性別④年齢⑤住所（郵便番号含む）⑥電話番号
- ⑦当日の交通手段